

アライズは、UNISDR（国連国際防災戦略事務局）の唯一の公認の民間企業ステークホルダーグループです。アライズ会員は UNISDR と協力して、防災・減災とレジリエンス（災害に強い社会）作りを目指します。現在、世界 38 ヶ国を本拠地とし、世界 150 ヶ国以上で事業活動を展開する 130 以上の企業・団体が会員となっています。

アライズのミッション

仙台防災枠組 2015-2030 は国連の正式な防災・減災アジェンダです。この枠組の世界的な実施と目標達成に取り組むのがアライズの組織としてのミッションです。



アライズ会員企業のミッション

1. 災害リスクを啓発します。
2. それぞれの専門分野でリードします。
3. 様々な防災・減災知識や経験を共有します。
4. 連携やイノベーションを創出する触媒となります。
5. 仙台防災枠組を実行します。

アライズ会員企業は、上記ミッションを自主的に遂行するという誓約書を UNISDR へ署名・提出しています。

沿革

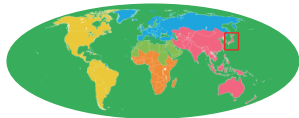
- 2011 年：UNISDR が有志の企業リーダーを招集し、民間セクターグループを設立した。
- 2013 年：UNISDR 公認イニシアチブの RISE が設立された。
- 2011-15 年：民間セクターの防災・減災における役割の重要性を、国際会議での発表や事例集の作成を通して発信したり、自治体のリスク自己診断ツールを開発し UNISDR を通して無償提供したり、企業セミナーを開くなど、各会員企業ができることを積極的に実施。
- 2015 年 3 月：第 3 回国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組 2015-2030」に民間セクターの重要性が強く盛り込まれた。
- 11 月：仙台防災枠組の実施に世界の民間企業が積極的に取り組めるよう、UNISDR が民間セクターグループと RISE を統合し、アライズが誕生。
- 11 月：日本地区の会員が集まり、アライズ・ネットワーク・ジャパンが誕生。
- 2016 年 3 月：アライズ・ネットワーク・ジャパンラウンディングフォーラムを実施。

更に詳しく：UNISDR（日本語）<https://www.unisdr.org/kobe/about>
アライズ（英語）<https://www.unisdr.org/partners/private-sector>

アライズは企業の皆様の参加を歓迎します。業種・規模は問いません。

- 参加条件は主に、企業であり、防災・減災の重要性について真摯に考え、行動する企業意志を持っていることです。
- 国際アジェンダの最新動向を入手することで、先行的な事業展開に役立ちます。
- 世界に向けて自社の知見・良例が発表・共有されると、社員も日々の業務に意義を感じ広い視野を持つようになり、前向きな姿勢が顧客にも伝わります。
- 国連組織、各国政府窓口、異業種・他地域の企業と関係を築く機会です。

アライズは 3 つ（世界・地域・地区）の活動レベルと 7 つの活動テーマを用意しています。



世界
グローバルなレベルでは、世界中から集まる 130 社・団体以上のアライズ会員（2016 年 3 月現在）とともに、7 つの活動テーマ（右参照）に沿った活動に参加できます
(活動言語：英語)

地域
アジア、アフリカ等世界五地域では UNISDR 地域事務所の活動にも連携し、地域毎の会合（アジアは隔年の防災閣僚会議と年三回のステークホルダー会合等）で発信、地域内会員企業との連携ができます
(活動言語：英語)

地区
アジアでは日本地区（2016 年 3 月現在 27 社）フィリピン地区等で会員ネットワークが立ち上がっており、災害に強い社会に向けた実質的なプロジェクト・活動を地区やコミュニティレベルで実施できます
(活動言語：各国言語)

1	Work Stream 1: Disaster Risk Management Strategies 防災・減災、レジリエンス強化に向け、官民連携、事業継続マネジメント、サプライチェーンの災害リスク対策強化、リスクを増やさない投資のあり方など戦略を考え実施します
2	Work Stream 2: Investment Metrics 国や企業などによる投資運用が、投資対象が抱える災害リスクを適切に判断した上のもになるよう、災害リスク評価指標を提案し、整備を推進します
3	Work Stream 3: Benchmarking and Standards 各国のレジリエンス強化につながる様々な基準（業界の自主的な基準や法的なものを含む）の、更新や新設を提案し、推進します
4	Work Stream 4: Education and Training 大学や専門学校などの高等教育機関や職業団体、訓練機関等が災害リスク管理を履修項目に含めるよう、提案し、推進します
5	Work Stream 5: Legal and Regulatory 上場企業の財務情報開示に災害リスクとレジリエンスが加味される、保険の利活用が向上する等を目指し、規制環境がどう変わるべきか考え、働きかけます
6	Work Stream 6: Urban Risk Reduction & Resilience 自己診断ツール（上 沿革を参照）を入り口として、官民連携を通じた都市やライフラインの災害リスク管理とレジリエンス向上を自治体に提案し、実施します
7	Work Stream 7: Insurance 保険加入率の向上、災害リスクを適切に判断した上の投資運用を促進するリスク転嫁の仕組み、災害リスク情報の業界内共有など、先行的知見を有する保険・再保険業界と連携し取組みます

アライズ参加に関する
お問い合わせ先

UNISDR 担当官（英語）Kiki Lawal (Ms.) lawalk@un.org 所在地：国連国際防災戦略事務局 ジュネーブ本部
アライズ日本地区窓口（日本語）国際航業株式会社 土井章 akira_doi@kk-grp, 阿部嘉子 yoshiko_abe@kk-grp.jp